

平成30年 9月15日
(2018年)
毎月3回5の日に発行
発行 全国市議会議長会

〒102-0093
東京都千代田区平河町2-4-2
代表 TEL 03(3262)5234
旬報 TEL 03(3262)2309
発行人 滝本 純生
<http://www.si-gichokai.jp>

全国 第2060号 市議会議長会旬報

委員長に新藤さいたま市議長

第135回国会对策委員会

第135回国会对策委員会が8月27日、開催された。開催に当たり、山田一仁会長（札幌市議会議長）は、政府要職の地元選挙区などを考慮し▽横浜市▽さいたま市▽岐阜市一の各議長を委員に指名した。



挨拶する山田会長

会議冒頭、正副委員長の候補者選任が山田会長の

北海道地震へのお見舞い

9月6日の平成30年北海道胆振東部地震により被災された地域、皆様方へ心からお見舞い申し上げますとともに、犠牲になられた方々のご冥福と、早期復旧をお祈り申し上げます。



就任挨拶する新藤委員長

協議では「要望書」「平成30年7月豪雨災害に關

していく」と挨拶した。委員長は「国対委員長の

大役に身の引き締まる思い。山積する要望事項の

実現に向けて全力を傾注している」と挨拶した。

に一任され、先例により委員長には、政府予算編成に当たり緊急・頻繁な

上京に対応できるように、関東地区から会長指名委員の新藤信夫さいたま市議長を推薦。副委員長には会長指名委員から



管内閣官房長官

する要望書」を原案の通り決定。「要望書」は、第94回定期総会会長決議

5項目と、厚生年金への地方議会議員の加入につ

いての6項目から成る。「平成30年7月豪雨災害

に関する要望書」は被災者救援や復旧対策の推進

など6項目から成る。両要望書は、本会ホームページに掲載している。

講師説明では、稲岡伸哉総務省大臣官房審議官

（税務担当）が「地方税制をめぐる現状と課題」と題し、車体課税について「31年度税制改正で大きなテーマとなることは



奥野総務副大臣

必至。地方の重要財源だと主張していく」と説明。

次に、多田健一郎総務省大臣官房審議官（財政

委員は「できるだけ市町村に影響を与えないよう」を要請した。

制度・財務担当）が「地方財政をめぐる現状と課題」と題し、一般財源総額については、2019

「21年度は、18年度の水準を下回らないよう実質同水準を確保し、これまでの取り組みを引き続き

行」と説明。臨時財政対策債については「発行額圧縮、債務償還に取り組み、国・地方合わせたプライマリーバランス黒字化につなげる」と述べた。

地方の基金残高の増加については「災害対応などに備えていると説得力を持って説明がされている」と考えている。増減の理由や今後の方針を統一的な様式で公表し、どう使っていくか示していきたい」と話した。

会議終了後、出席委員は菅義偉内閣官房長官、奥野信亮総務副大臣に面談。要望書を手交し、要請した。

会議の経過概要は9月末に全市に発送予定。

大都市の課題等について協議

広島市で指定協第16回総会

全国市議会議長会指定都市協議会(会長||角谷庄一|大阪府協議会議長)は8月21日、広島市で第16回総会を開催した。

会議では、角谷会長、開催地の永田雅紀副会長



挨拶する角谷会長

要望項目追加を決定した。30年度の活動では、協議すべきテーマとして①多様な大都市制度の創設等②議会の権能強化③東京開催の研究会のあり方を原案通り決定。要望す

べき項目では、多様な大都市制度の早期実現、地方財源の充実確保を原案通り決定した。

意見交換では「多様な大都市制度の創設等」を取り上げ、大都市に関する特例の一つである「児童福祉に関する事務」について各市が特徴的な取り組みを報告。

「児童虐待防止」では、田形清信静岡市議会議長が「NPO法人への里親関連業務の委託」や「Jリーグ『清水エスパルス』との協働によるオレンジリボンキャンペーンの実

施」を、川上晋平福岡市議会議長が「児童相談所体制の充実」や「子育て見守り訪問員派遣事業」などを説明した。

「待機児童対策」では、松本研横浜市議会議長が保育士確保・受け入れ枠拡大等の主な取り組みとして、さまざまな保育士等の処遇改善策や、保育

・教育コンシェルジュの取り組みなどを、寺田一博京都市議会議長が独自運営補助金の支出による全国基準を上回る給与水準の確保、国水準を上回る保育士配置基準の条例規定などについて説明。

議会改革について議論

総会終了後の研究会では、伊藤敏安広島修道大学国際コミュニケーション学部教授が「指定都市における議員の確保について」と題し講演。

議会改革の留意点として、議員の確保では▽議会改革(通年会期や議会の夜間・土日開催など)▽多様な立候補者の確保(女性・勤め人の立候補の促進、兼業規定の見直しなど)▽次世代の育成(党派を超えた「市民政治塾」など)を挙げた。

地方議会への関心の喚起について、「機会コスト」(投票に行くことで、仕事、家族や友人とのレジャー、趣味などほかの何かを犠牲にせざるをえないこと)の低減として、携帯電話やパソコンによる投票を挙げた。

全国市議会議長会基地協議会(会長||小比類巻正規|三沢市議会議長)は8月23日、小比類巻会長はじめ副会長・相談役の議長(3面掲)により、平成31年度基地対策関係

協基地交付金増額確保を

概算要求時要望活動

予算確保(概算要求時)要望活動を行った。寺田稔衆議院安全保障委員長、江渡聡徳自由民主党政務調査会長代理らに要望書を手交の上、要望した。

【3面へ続く】



寺田衆議院安全保障委員長(右から6人目)、右から4人目は太田財務省主計局長

「放課後児童対策」では、松原成文川崎市議会議長が全ての小学生を対象に、全市立小学校内の学校施設等を活用した「わくわくプラザ事業」と放課後児童健全育成事業を合わせて行うことなどについて報告し、今後、各市の意見を踏まえ、要望書を取りまとめたい

「合理的無関心」(候補者、政党、政策に関する情報を獲得するコストは高くつく半面、自分の1票による影響や効果はごくわずかであるため、無理して投票に行かないか、真剣に考えず投票すること)の解消として▽議会の「見える化」▽活気のある政策論争▽魅力ある「議会だより」▽傍聴人への配慮(子ども連れ・障がい者など)▽議場外説明会を提示した。

「若者の政治参加」では、現在の若者が50〜60歳台になったときの投票率は、現在の50〜60歳台の投票率を下回るおそれがあると指摘。対応方針として、若者への有権者教育、議会見学などを挙げた。

また、講演後には伊藤教授をファシリテーター(進行役)として意見交換が行われ、講演内容を踏まえ、各市の議会改革や市民への働きかけの取り組みについて、活発な議論が交わされた。

(公財) 後藤・安田記念東京都市研究所
(旧・東京市政調査会)
第48回『都市問題』公開講座

「高校が「地方」を育てる」

『都市問題』公開講座は、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所(旧・財団法人東京市政調査会)の発行する月刊誌『都市問題』の特集などから時宜に合ったテーマを選び開催しています。

第48回は次のような趣旨により、「高校が「地方」を育てる」をテーマとして開催いたします。多数の方々のご参加をお待ちしております。

○開催趣旨

多くの「地方」において、若者の「中央」への流出の契機となっているのは、大学進学である。この点を捉えれば、学校教育は子どもたちに「地方を捨てる学力」を与える結果になっていると言えよう。しかし日本の大学進学率は50%前後で推移しており、裏を返せば、50%の若者は高校を最終学歴としているのである。ゆえに、高校は大学への単なる通過点や踏み台ではないし、あってはならない。本講座では、「高校が「地方」を育てる」という視点から、高校の教育のあり方と地域の産業・雇用のあり方を合わせて問い直し、「地域で生きていくこと」を可能にする高校および高校教育のかたちを追究する。

○日程

2018年10月27日(土)13:30~16:30(開場13:00)
日本プレスセンター 10階ホール
(〒100-0011東京都千代田区内幸町2-2-1)

○出演者

基調講演
西城 賢策 氏(北海道三笠市長)
パネルディスカッション
片山 悠樹 氏(愛知教育大学教育学部准教授)
熊谷 修山 氏(島根県立津和野高等学校校長)
筒井 一伸 氏(鳥取大学地域学部教授)
宮口 侗迪 氏(早稲田大学名誉教授)〈司会〉

○参加費:無料

○参加申込み:後藤・安田記念東京都市研究所ホームページ(<http://www.timr.or.jp>)からお申込みください。

○申込み期限:2018年10月25日(木)

※満席となりしだい受付を終了しますので、お早めにお申込みください。

○問合せ先:後藤・安田記念東京都市研究所
TEL:03-3591-1239、FAX:03-3591-1209

【2面から続く】
要望書は、7月4日の第91回理事会で決定した。特に、重点要望である▽基地交付金・調整交付金(総務省所管)の増額確保等▽基地周辺対策経費(防衛省所管)の所要額確保等について強く求めている(2054号1面掲。要望書は本会ホームページに掲載)。
【面談者(面談順)】
▽寺田稔衆議院安全保障

委員長▽太田充財務省主計局長▽坂本哲志自由民主党地方税勉強会代表世話人▽中村吉利防衛省地方協力局長▽江渡聡徳自由民主党政務調査会長代理
※要望参加市町
▽会長 三沢市
▽副会長 恵庭市、武蔵村山市、綾瀬市、東広島市、鹿屋市、上富良野町、瑞穂町
▽相談役 福生市、呉市



18(正式企画名称)防災ぼうさいこくたい20

連携の輪を地域で強く

災推進国民大会)が、10月13日(土)・14日(日)、東京ビッグサイト、そなエリア(東京臨海広域防災公園)で開催されます。同大会は、国民の防災意識の向上、災害に関する知識や経験などの共有を目的とした日本最大級の防災イベントです。
テーマは「大規模災害に備える〜みんなの連携の輪を地域で強く

する」。東京ビッグサイトではセッションを中心に、そなエリアではセッションのほか車両展示や屋外イベントも展開されます。
仙台での前回大会には、約1万人が参加しました。同日、東京都防災展2018も開催されます。様々な体験を通して、もの時に何が必要か、子どもから大人まで防災を学べるイベントです。

地元の逸品・郷土の名産



かでも本 鯉節のな 守り続け ている。 が伝統を 守り続け ている。 かの本

日本一の鯉節のまち
～枕崎市～

ある。 カツオ一 本釣りの盛 んな枕崎市は、 鯉節の生産量日 本一で、300 年以上の鯉節の 歴史を持ってお り、今も約50軒 の鯉節屋



枕崎名物 左から黒豚角煮、ぶえん、芋焼酎
【写真提供=枕崎市】

の鯉節屋 が伝統を 守り続け ている。 かの本 鯉節のな 守り続け ている。 かの本
枯節は、カビを利用して 水分を徹底的に抜くこと で、旨味を凝縮した手間 のかかる逸品。
生のカツオの「ぶえん」 も名物。釣り上げてすぐ、一匹ずつ活きじめ(血抜き)し、急速冷凍した「枕崎ぶえん鯉」は、生臭さの無いさわやかな味と弾力のある歯応えが特徴の垂涎の一品である。



昨年の金沢ウォーク
【写真提供=金沢市】

「スポーツで人とまちを元気にする」を旗印に今年4月、スポーツ文化推進条例が施行された金沢市。北陸新幹線で東京と2時間半で結ばれたことから、観光客の気はますます高まっているが、条例の目玉がスポーツツーリズムの推進だ。10月の「金沢ウォーク」「金沢マラソン」では、金沢の魅力発信して交流人口を増やす取り組みが行われる。

子どもから大人まで歴史と自然が感じられる金沢の街歩きを楽しんでもらう伝統の金沢ウォークは10月6、7両日の開催。3000人の参加を目指す。3kmから22kmまで距離の異なる6コースを設定し、参加料は大人が500〜1000円、高校生以下は無料。金沢城周辺や主計（かずえ）町茶屋街、長町武家屋敷跡など市内中心部のまちなみを散策するほか、辰巳用水や犀川、浅野川、卯辰山山麓寺院群、市街地を一望できる大乘寺丘陵公園を巡る。金沢港から海沿いを潮の香りを感じながら歩くコースもある。割引参加料となる事前申し込みは9月24日までで、当日も受け付ける。

金沢ウォークはこれまで市民、石川県民対象の健康づくりのイベントの色彩が強かったが、条例に位置付

交流人口増へ スポーツツーリズム



マラソン、ウォークで魅力発信-金沢市

けた「スポーツを通じた地域の活性化」を前面に掲げた取り組みにする。条例で「市は、スポーツの競技会、大会、合宿等への参加又は観戦のため

国内外から来訪する者が市内及び周辺の観光地を巡り、又は市民と交流することによる地域の活性化を図るため、事業者及びスポーツ関係団体と連

携し、競技会等の開催又は誘致その他必要な施策を講ずる」と規定しており、スポーツツーリズムの推進で市外PRに力を入れる。旅行会社とタイアップし、首都圏エリアからの金沢ウォーク参加者向けに、往復の北陸新幹線、金沢市内の宿泊、金沢ウォーク参加費がセットになった割安プラン（一人2万8600円）を新設。



昨年の金沢マラソン
【写真提供=金沢マラソン組織委員会】

金沢ウォークに参加し、観光もしてもらう作戦だ。一方、今年で4年目となる金沢マラソンは10月28日に実施。参加料1万円、定員1万2000人に対し、過去最高の3万2297人の応募があった。応募者の内訳は地元石川県が1万2209人、北海道から沖縄まで他県が1万8877人、国外が1211人。「全国から参加してもらい、

豊かな自然や歴史的景観、食や伝統文化といった金沢の魅力を満喫していただく。市民や地元企業、ボランティアが一体となってランナーをもてなす参加者と市民が触れ合える、賑わいのある大会」がコンセプト。金沢市のシンボルである金沢駅前の鼓門が見える第1回大会コースを復活させたほか、沿道応援者とランナーや、ランナー同士のコミュニケーションをとってもらおうと、ナンバー

カードに自身の都道府県名や国・地域名を表示する取り組みも新設する。沿道では金沢市消防団員が加賀纏を振って応援したり、ランナーに金沢カレーなどを提供したり、途切れない応援、おもてなしを行う。市金沢マラソン推進課は「半分は県外の方が参加し、交流人口拡大で経済活性化を狙っています。マラソンの次は冬に来てカニを食べよう」と、金沢ファンになっ

てもらえれば」と話す。山野之義金沢市長は「スポーツを地域活性化の起爆剤にして交流・定住人口を増やし、世界の交流拠点都市金沢を目指す」と宣言。スポーツをする、観る、支える、応援する、語り合うことが日常的に行われ、生活に溶け込む「スポーツ文化」を根付かせようと、取り組み方針などを示した条例が制定された。

【5面へ続く】

【4面から続く】

市議会も一体となってスポーツ・観光のまちづくりを推進。石川県立金沢桜丘高校の3年生だっ



清水金沢市議長

た昭和50年、夏の甲子園第57回大会に出場した元高校球児のスポーツマン、清水邦彦金沢市議会議長は金沢ウォークについて「健康のための歩きだけでなく、観光を前面に出すことで金沢の魅力発信になる。歩きながら観光スポットを巡り、ほんものの金沢を感じてもらえる」と、県外からも幅広

議会人事

- 議長 大阿久岩人(5・17)
▽豊中 今村正(5・31)
▽野田 森脇悦朗(6・11)
▽和歌山 鶴岡 潔(6・12)
▽鎌倉 松井紀博(6・12)
▽江津 森脇悦朗(6・11)
▽深谷 茂木一郎(6・4)
▽石巻 高橋栄一(6・6)
▽岡谷 渡辺太郎(6・7)
▽鴨川 佐久間章(6・8)
▽菊池 水上彰澄(6・8)
▽所沢 近藤哲男(6・11)
▽神戸 平野昌司(6・11)
▽江津 永岡静馬(6・11)
▽尾道 加納康平(6・11)
▽野田 山口克己(6・12)
▽和歌山 山口克己(6・12)
▽鎌倉 大石和久(6・13)
▽高知 清水おさむ(6・14)
▽古河 佐藤 稔(6・15)
▽西宮 篠原正寛(6・15)
▽土浦 福田一夫(6・19)
▽結城 黒川充夫(6・19)
▽事務局長 小松 厚(4・1)
▽岡谷 大隅啓一(4・1)
▽鎌倉 宮野俊彦(4・1)
▽蓮田 宮野俊彦(4・1)
▽ふじみ野 小林 力(4・1)
▽出雲 今岡範夫(4・1)

世界最高峰の車いすマラソン

11月に大分で国際大会開催

先ごろ行われたアジア競技大会における日本選手活躍でも、金銀のメダルを残した男女マラソンは記憶に残るところ。

として、車いすマラソンも近年知られるようになった。日本では「大分国際車いすマラソン大会」が世界最高峰の大会として有名。大分県や大分市などの主催で昭和56年に世界初の車いす単独の大会としてスタートしたが、



スポーツ 観光まちづくり
kmを駆け抜ける過酷な競技
同じ42
・195
大会としてスタートしたが、

第37回大会は台風で中止となったが、海外15カ国、国内31都道府県から224選手がエントリーした世界最大規模の大会となるはずだった。



登り坂を力走する選手たち(第36回大会)
【写真提供=大分市】

30年は11月18日開催。最高時速は50kmを超えるという自動車並みの速度で、42・195kmを1時間20分台で走破。障がい者のみならず一般観客にも深い感動を与え

支えられており、この大会を通じて世界中に友情の輪が広がっていく。

全力でユニバーサルデザインのまちづくりを

同大会について、野尻哲雄大分市議会議長は、「大分国際車いすマラソン大会は、昭和56年に第1回が開催され、30年で38回目となるが、この間、数々の栄光と感動を刻み続け、世界中の車いすランナーが目標とする世界最大規模の大会へと成長していった。大分市は本

大会の開催実績等が評価され、30年5月に『共生社会ホストタウン』として登録された。本大会には、今年も世界中の国々から多くの選手がエントリーしており、市議会としても『共生社会ホストタウン』として選手や市民の皆様をはじめ、本市を訪れる皆様が過ごしやすいうニバーサルデザインのまちづくりに全力で取り組んでいく」と語っている。

地域医療を守り育てる

11月に地域医療政策セミナー開催

全国自治体病院経営都市議会協議会(会長 天沼久純盛岡市議会議長)

は11月1日、第14回地域医療政策セミナーを開催

します。セミナーでは、長島仁士別市病院事業管理

理者・院長、下河原忠道株式会社シルバーウッド

代表取締役から、それぞれ講演いただきます。

先着順です。お早めにお申し込みください。

協議会加盟市・組合議会であれば、正副議長

だけではなく、議員の方々、議事事務局、病院、市の

担当職員の方も無料で参加いただけます。

加いただけます。加盟団体以外の方も参加費2,000円で参加可能です。

なお、開催要領、参加申込書は本会ホームページに掲載しています。

【講師紹介】

▽長島仁氏(ながしまひとし) 高知生協病院・

内科などを経て、24年から士別市立病院副院長・

循環器内科診療部長。28年から同院長、30年から士別市病院事業管理者。58歳

▽下河原忠道氏(しもがわら・ただみち) 12年に株式会社シルバーウッド設立。23年にサービス付

き高齢者向け住宅「銀木犀」開設。29年には「VRでの認知症体験」プロジェクト開始。47歳。

第14回地域医療政策セミナー

主催 全国自治体病院経営都市議会協議会

全国自治体病院経営都市議会協議会は、加盟都市・病院組合議会による自治体病院経営の健全化のための活動に資することを目的に、地域医療政策に関するセミナーを開催しています。

地域における医療現場の実態に詳しいお二人の講師より、地域医療をいかに守り育てるかについて、それぞれのご経歴や実務経験を踏まえたお話を伺います。

- 【開催日時】平成30年11月1日(木) 午後1時～4時40分(正午受付開始)
【開催場所】都市センターホテル3階「コスモスホール」東京都千代田区平河町2-4-1

講演



『「崖っぶち」自治体病院 ～北の大地で経営改革を目指して～ “北の1億円男”と呼んでください!』 士別市病院事業管理者・院長 長島仁氏



『看取り率76%新たな看取りの場として機能するサービス付き高齢者向け住宅「銀木犀」の挑戦』 株式会社シルバーウッド代表取締役 下河原忠道氏

- 【参加対象】全国自治体病院経営都市議会協議会加盟都市・組合の議会正副議長、議員、議事事務局職員、病院職員及び市長部局担当職員
【定員】300名(先着順) ※1団体当たりの人数制限はありません。 ※定員に達した時点で締め切らせていただきます。
【参加費】無料(ただし、協議会加盟団体以外は1人2,000円)
【申込方法】全国市議会議長会ホームページより参加申込書を印刷し必要事項をご記入の上、必ず議事事務局を通じてファクスにてお申込みください。
【問合せ先】全国市議会議長会 政務第二部 尾崎、中富 TEL: 03-3262-5236



共同編集：全国市議会議長会・全国町村議会議長会

議員研修誌 月刊 地方議会人

A4判・68頁・定価752円(年間購読料9,024円)

【2018年9月号】

- 特集：議会と住民のコミュニケーション 高沖秀宣
巻頭言：自治体議会と住民 河井孝仁
共創参画プロモーション 松野 豊
議会改革は自分改革 坪郷 實
自治体議会への市民参加

【現地報告】

- 宮城県柴田町
東京都あきる野市
愛知県岩倉市

【連載】

- 議会からの条例入門 吉田利宏
議会紹介 Ver.4 田口一博
議会と予算決算 新川達郎

ご注文・問い合わせは TEL 03-3264-2520 又は FAX 03-3264-2867 URL http://chuobunkasha.com/

株式会社 中央文化社